

鹿児島県 Kagoshima Pref. (薩摩 Satsuma/ 大隅 Osumi/旧肥後 former Higo)



長島の行人岳から

鹿児島県では、北西に位置する長島町の長島や獅子島の展望所、出水市の高台の展望所、そして北部にそびえる霧島連山から、空気が良く澄んだ日には“**南面～南東面の雲仙岳**”が眺望できます。手前には八代海と天草の島々、冬にはツルの舞う出水平野などが横たわり、その奥にぽっかりと浮かんで現れます。

長島町は、熊本県の天草地域、長崎県の**雲仙地域**とともに雲仙天草国立公園の一角（南端部）を占め、風光明媚な海洋景観が高く評価されていますが、歴史的にもこれらの地域とつながりがあり、かつては他の天草の島々と一緒に肥後国に属し、**雲仙岳**そびえる肥前国とともに“**火の国**”（**肥の国**）を構成していました。中世の時代に薩摩国・大隅国の領主であった島津氏に占領され、薩摩国に編入されましたが、青い海と棚畑の多い島々の景観は、長島町から**雲仙岳**まで連綿と楽しむことのできる景観です。

また、**雲仙岳**そびえる**島原半島**の領主・有馬氏が、佐賀領主の龍造寺氏に北から攻め込まれて窮地に陥った際には、有馬氏から島津氏に援軍の依頼があり、南から援軍を送って龍造寺氏を打ち破り、有馬氏が存続できたという歴史もあります。その際、キリシタン大名であった有馬氏に破壊されていた**雲仙岳**の山岳宗教施設を見て、霧島連山等の山岳宗教に熱意のあった島津氏が復興への意向を示し、有馬氏による雲仙地獄（**雲仙岳**の山岳宗教の中心地）のイエズス会への寄進が取りやめられたとの逸話が残っています。

島津氏の信仰の対象となっていた霧島連山と**雲仙岳**は、昭和9年3月16日、日本初の国立公園として同時に指定され、平成26年には80周年を迎えています。火山としての地形・地質は異なりますが、春はピンクのミヤマキリシマ、夏は青い草原、秋は錦の紅葉、冬は白い霧氷と、九州ならではの四季の彩りを共有しています。現在、**雲仙岳**（**島原半島**）はユネスコ世界ジオパークに、霧島連山は日本ジオパークに認定され、火山の多様な楽しみ方ができるようになっています。

上記のようなストーリーを楽しめる散策道として、九州全県をつないで一周するトレイル“九州自然歩道”があります。県北の山岳地帯から錦江湾を取り巻くように薩摩半島・大隅半島に延びるトレイルは、**雲仙岳**が眺望できる霧島連山の高千穂峰や韓国岳などを通して、遥か**雲仙岳**まで続いています。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、鹿児島県を旅してみませんか？

●鹿児島県の観光情報はこちら↓

鹿児島県観光連盟 <http://www.kagoshima-kankou.com/>